

東京 23 区における公園の防災機能に関する研究 -行政計画上の位置づけに着目して-

1X20D054-2 辻本葵*

災害による被害を最小限に抑えるためには、様々な防災関連施設の整備や連携が必要であり、公園も避難場所や支援拠点として利活用されてきた。日々の憩いの場でもある公園が、そうした防災上の役割を適切に発揮するためには、緑地計画や防災計画での位置づけが大きな影響を与える。そこで、本研究では東京 23 区を対象とし、現在の公園に関する計画の策定状況について調査した。その際、公園が担う防災機能の位置づけに着目して、防災機能の分類を行い、23 区全体の傾向を明らかにした。さらに、公園面積などの実際の公園の整備状況から特徴的な区を選定し、詳細調査を行った。その結果、地域特性が計画にも反映されており、区の重要視する施策が明らかとなった。

Key Words : 公園, 防災機能, 緑の基本計画, 地域防災計画, 都市計画マスタープラン

1. 研究の背景と目的

(1) 研究の背景

我が国において、公園を核とした緑とオープンスペースの在り方は、災害や社会背景によって大きく変化してきた。公園発展の契機となった関東大震災以後は不燃や防火の役割を持つ緑地の保全が進み、戦後において戦災復興が進んだり、1995 年の阪神淡路大震災では公園が救援活動の拠点として活用された事例や延焼防止に役立った事例が見られた²⁾。その後も、東日本大震災や熊本地震において、津波からの避難地やオープンスペースでの車中泊といった活用がされている。

こうした利用形態の変化や拡大に伴い、行政計画もその内容が見直されてきた。様々な公園のストック効果のなかでも、防災性の向上による安心・安全効果は特に大事な効果として挙げられる³⁾。行政計画においては、地域や住民のためにその効果を引き出すことまでが役割である。

安心・安全効果を十分に発揮するためには、あらゆる災害に対して、総合的な公園整備を進めていくことが必要である。特に、東京都では建物が密集し、高度な土地利用が行われており⁴⁾、公園は貴重なオープンスペースの一つである。各市区町村においては、公園の防災機能について、緑の基本計画などの緑地関連の計画に加えて、地域防災計画などの防災関連の計画やそれらの上位計画にも位置づけが示さ

れており、今後の更なる整備や施策が求められる。

(2) 研究の目的

こうした背景を踏まえ、本研究では現在策定されている公園整備や防災まちづくりに関する計画で、公園がどのような防災機能をもつように位置づけられているのかを調査する。その際、対象地域を東京 23 区とし、全体としての傾向を明らかにすることを目的とする。なお、公園や緑地の防災機能に着目した研究として、延焼防止などの特定の役割について明らかにすることを目的とした研究⁵⁾も存在するが、本研究では、公園が単に存在することにより被害を軽減させる延焼防止などの役割から、救援活動などがその空間を利用することにより発揮される役割まで、網羅的に整理を行う。これにより、あらゆる災害に対し、公園にはどのような防災機能が位置づけられているか把握し、計画策定のための示唆を得ることを目指す。

2. 既存研究の整理と本研究の位置づけ

(1) 既存研究の整理

本研究に関する既存研究を、a) 災害時の公園の活用に関する研究、b) 緑地関連の制度や計画を扱った研究、c) 防災関連の制度や計画を扱った研究の 3 点に分けて、それぞれ整理する。

a) 災害時の公園の活用に関する研究

*早稲田大学創造理工学部社会環境工学科 景観・デザイン 佐々木葉研究室 学部 4 年

災害時に、公園が避難場所となった実際の事例を扱った研究などが存在する。どのような経緯で避難場所として選択されたのか、ソフト面から着目している研究が見られる。

樋口ら⁹⁾は、新潟県中越大地震において公園がどのように機能したのかを明らかにし、地域住民の公園に対する「町内の庭」という意識を持ってもらうことの必要性を述べている。

塚田ら⁷⁾は、東日本大震災以降に多くの自治体で地域防災計画の見直しが行われたことを背景とし、公園の防災機能に着目した住民アンケートを行った。結果として、「公園満足度」と「防災機能」は相互に影響を及ぼしていることが明らかになった。

b) 緑地関連の制度や計画を扱った研究

緑地計画を扱った研究は、その変遷を扱った研究など多数存在するが、本稿では現行計画の内容について扱った研究に着目する。

竹内⁸⁾は緑の基本計画に着目し、市区町村ごとの制度の実効性について特徴を分類した。緑の基本計画に着目した理由として、策定主体が市区町村であり浸透してきていることや関連制度が多岐にわたることなどを挙げている。

松岡⁹⁾は緑化政策で使用される指標に注目し、緑地に関する制度や計画の変遷を調査した。また、東京23区を対象とし、各区における緑の基本計画で用いられる目標指数を比較することで、各区の緑化政策の特徴を明らかにした。

c) 防災関連の制度や計画を扱った研究

防災計画を扱った計画の中でも、公園や緑を中心にその位置づけの把握を行った研究に着目する。

石田ら¹⁰⁾は、災害後の一時避難生活時に公園を活用するために、東京23区ではどのように計画が立てられているか整理を行い、区ごとに防災関連施設の位置づけが大きく異なることを明らかにした。また、防災機能に関して、公園とその他の防災関連施設によって分担がなされていることを明らかにした。

荒金ら¹¹⁾は都市公園を含めた防災系統緑地の機能を発揮させることを目的とし、「基幹的インフラとしての位置づけ」と「他のインフラを補う手段としての位置づけ」があることを示した。緑の基本計画においては、特に後者の位置づけが少ないことを明らかにし、今後のさらなる位置づけの重要性を考察している。

小口¹²⁾は整備プログラムの必要性を説き、防災公園の整備目標や配置計画について考察している。

同様に、増田¹³⁾は「防災公園等による緑の広域防災ネットワーク」について注目し、一次避難地としての公園配置について考察している。

(2) 本研究の位置づけ

本研究は公園や緑地に関する計画を扱った松岡、石田ら、荒金らの手法を踏まえ、東京23区における計画の策定状況に注目する。

その際、緑の基本計画、地域防災計画、都市計画マスタープランの3つを対象計画とする。公園における具体的な防災設備の有無を調査した研究はあるが、本研究では防災設備に限らず、防災機能全般の記載状況を整理する点に新規性がある。

さらに、対象とする計画を1つに限定せず、複数の計画から公園の防災機能に関する記載を調査する。このように、機能面においても計画面においても、網羅的に整理を行う点に特徴がある。

3. 研究の方法

(1) 研究の流れ

まず、東京都の公園整備や防災まちづくりに関連した計画から、対象とする計画を選定する。その後、23区それぞれで対象計画の策定状況について整理する。各区で公園の防災機能がどのように位置づけられているのか特徴を明らかにするとともに、全体の傾向を把握する。さらに、実際の公園の整備状況等から、特徴的な2区を選定し、公園面積などの地域特性が計画にどのように反映されているのか詳細調査を行う。

(2) 対象とする計画

本研究では、公園の有する防災機能について調査するにあたり、各区が策定する、緑化計画および防災計画、それらの分野別計画の上位計画である総合計画について着目することとする。具体的には、緑化計画として緑の基本計画を、防災計画として地域防災計画を、総合計画として都市計画マスタープランを対象計画とする。

緑の基本計画は同計画を対象とした、松岡⁹⁾や荒金¹¹⁾が行った既存研究から5年以上が経過しており、この5年間で東京23区のうち約7割の16区で新たに改訂および策定が行われた。酒井¹⁴⁾も、緑の基本計画について、策定年度が新しいほど計画内容が優れていると考察している。

地域防災計画は、災害対策基本法に基づいた計画であり、主に短期的な施策が位置づけられている。防災に関する業務や対策が定められており、緑の基本計画において防災関連施策の位置づけを充実させるために、緑の基本計画との整合や連携が必要とさ

れている¹⁵⁾。

都市計画マスタープランは、個別計画である緑の基本計画や地域防災計画と異なり、長期的な都市の将来像および整備方針を示すものである¹⁵⁾。

緑の基本計画、地域防災計画、都市計画マスタープランは策定目的や策定内容が異なるものである。目的や内容が異なるため、公園の位置づけ自体もそれぞれ異なる。しかし、そうした3つの計画に注目することで、公園整備とりわけ防災上の整備が区の方針の中でどのように行われているのか広い視点で総合的な考察ができると考える。

(3) 策定状況の把握方法

本研究では、公園が担う防災機能は各計画でどのような位置づけがされているのか、計画の読み取りによって整理する。そのための方法として、みどりの防災機能を扱った荒金ら¹¹⁾の研究を踏襲しつつ、公園の防災機能の位置づけを分類する。具体的には、国土交通省が整理した防災公園の役割¹⁵⁾をもとに、「火災の延焼防止」「都市水害軽減」「帰宅者支援」「避難場所」「避難路」「物資輸送」「救援活動の場」「防災に関する知識を学ぶ場」「避難生活」「復旧・復興」「防災設備」の11の項目に分類する。なお、国土交通省の防災公園の役割は、主に震災を対象とした役割であったが、本研究では主に震災に加え水害も対象とするため、「都市水害の軽減」を新たに追加した。各区で策定された緑の基本計画、地域防災計画、都市計画マスタープランにおいて、これらの位置づけの有無について整理し、各区の特徴を把握する。

4. 東京23区での防災面での公園施策

(1) 東京23区での全般調査

表-1に防災機能の各項目と対象計画での記載例を示す。また、緑の基本計画・地域防災計画・都市計画マスタープランにおける調査結果を表-2に示し、記載がみられた区の数に特に多かった3項目に対して色付けした。濃淡はその多さを示す。

なお、今回の記載の有無については、公園を指していると明確に判断できるもののみを対象とする。また、「緑」や「みどり」といった、公園を含む可能性はあるが公園と限定していないものについてはカウントをしない。

公園の防災機能は、公園の存在そのものが災害による被害を減らす存在機能と、公園という空間を利用することにより被害を減らす利用機能に分けられる。利用機能は、災害発生直後だけではなく、発生

表-1 各項目と対象計画内での記載例

防災機能の項目	計画内での具体的な記載例
火災の延焼防止	植栽帯、遮断帯、防火水槽、親水公園など
都市水害軽減	雨水貯留施設、雨水浸透、透水性舗装、親水公園、高台化、土のうなど
帰宅者支援	帰宅困難者滞在の場など
避難場所	一時集合場所、広域避難場所など
避難路	避難路など
物資輸送	物資輸送路など
救援活動の場	派遣部隊、ヘリ離着陸、給水拠点、物資集配など
防災に関する知識を学ぶ場	避難訓練、自主防災組織の活動の場など
避難生活	車中泊、仮設住宅など
復旧・復興	がれき置き場など
防災設備	備蓄倉庫、かまどベンチ、ソーラー照明、災害用トイレ、井戸、屋外スピーカー、非常用電源など

前や発生後の活動においてもその機能が発揮されることが特徴的である。

緑の基本計画において、「避難場所」は23区中19区で記載が確認でき、最も記載が多い項目であった。また、23区中15区に記載があった「火災の延焼防止」は、植栽帯や遮断帯の一部を担う存在機能と、防火水槽などの設置を行う利用機能の両者が確認できた。この存在機能は、緑地としての公園の側面が大きく反映されたものであると考えられる。

地域防災計画は、緑の基本計画と同様、「火災の延焼防止」や「避難場所」が多く見られたことに加え、「救援活動の場」が23区中21区と9割以上の区で見られた。「救援活動の場」は、災害後に自衛隊の活動場所や給水拠点、さらには物資や食料の集配が行われる場の一つとして、公園が指定されていた。これは、災害を想定した短期的なスパンでの具体的な公園利用を定めた地域防災計画だからこその特徴だと考えられる。また、ハイライトをした特に記載の多い3項目の記載数の差が、緑の基本計画や都市計画マスタープランと比較して小さく、あらゆる項目が満遍なく確認できた。

都市計画マスタープランは、特に記載の多い3項目が緑の基本計画と同じ結果となった。しかし、都市計画マスタープランは、緑の基本計画や地域防災計画と比較して、記載の多い区と少ない区の差が大きいという点で特徴的である。記載のある項目が1項目以下だった区は、緑の基本計画および地域防災計画では2区だったのに対して、都市計画マスタープランでは7区だった。都市計画マスタープランは、区全体の方針を示すため、防災の観点を重視する区とそうでない区で差が出たものだと考えられる。

表-2における3計画の共通の特徴としては、「避難場所」や「防災設備」が特に記載の多い項目だったことである。その理由として「避難場所」に関しては、一時集合場所や広域避難場所など、公園の規模や配置により様々な形で機能することが考えられる。また、「防災設備」に関しては、具体的な目標の立てやすさや必要に応じた機能・設備の追加がしやすいことが考えられる。

表-2 対象計画での公園の防災機能の記載状況

区 防災機能	区																							
	千代田区	中央区	港区	新宿区	文京区	台東区	墨田区	江東区	品川区	目黒区	大田区	世田谷区	渋谷区	中野区	杉並区	豊島区	北区	荒川区	板橋区	練馬区	足立区	葛飾区	江戸川区	
火災の延焼防止	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	15
都市水害軽減	○	○	○	○	○	○		○				○	○								○		○	10
帰宅者支援			○									○											○	3
避難場所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	19
避難路			○						○	○				○									○	4
物資輸送																								0
救援活動の場														○									○	9
防災知識を学ぶ場	○	○						○						○									○	3
避難生活		○							○														○	5
復旧・復興														○									○	3
防災設備		○	○	○				○	○	○	○	○	○	○									○	15
	4	2	8	3	2	2	2	7	5	2	4	6	2	6	3	3	4	1	3	0	4	6	7	86
火災の延焼防止	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14
都市水害軽減	○	○	○	○	○			○	○	○	○			○							○		○	13
帰宅者支援	○	○	○																				○	4
避難場所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	18
避難路					○																		○	2
物資輸送																							○	5
救援活動の場	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	21
防災知識を学ぶ場								○	○	○	○												○	6
避難生活									○	○														6
復旧・復興	○	○	○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	15
防災設備	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	19
	6	7	7	7	9	4	8	6	8	5	4	1	4	6	6	3	0	6	4	5	5	6	6	122
火災の延焼防止	○	○	○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14
都市水害軽減	○	○	○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
帰宅者支援																							○	1
避難場所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	17
避難路									○														○	2
物資輸送																							○	2
救援活動の場	○		○											○									○	6
防災知識を学ぶ場																							○	1
避難生活				○																			○	3
復旧・復興			○											○									○	2
防災設備		○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12
	3	1	6	4	1	1	1	2	4	2	4	5	2	5	1	5	0	3	3	1	5	4	6	69

(2) 公園の整備状況の整理

次に、各区の実際の公園の整備状況と記載の傾向を把握するため、まず公園の一人当たりの面積および10ha以上の公園面積の割合を調査した。その結果を図-2に示す。ここで、公園一人当たりの面積は公園の充足度を把握するため、都市公園の総面積に対する10ha以上の公園面積の割合は、区内の公園の規模感を把握するための値として用いた。

図-2からは、公園一人当たりの面積が特に小さい目黒区・文京区・中野区・豊島区では、10ha以上の都市公園が存在しないことが分かる。このうち、目黒区・中野区・豊島区は都立公園が区内に1つも無い区という点で共通している。一方で、公園一人当たりの公園面積が特に多い江戸川区・足立区・江東区はいずれも都立公園が3つ以上区内に存在する。

(3) 特徴的な区における公園の整備状況と計画

図-2において公園の充実度や規模感が対照的かつ、緑の基本計画・地域防災計画・都市計画マスタープランの3つの計画を通して、策定年度が新しい豊島区・江東区について詳細調査を行う。その際、充実度・規模感の違いがどのように計画に反映されているのか把握する。詳細調査は計画の改定前後の比較や区役所の担当者へのヒアリングによって行う。

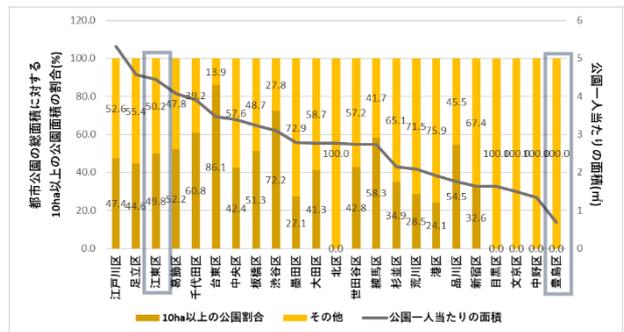


図-2 東京23区の公園整備の実態¹⁶⁾

5. 豊島区と江東区での詳細調査

(1) 対象区の概要

対象区の概要を表-3に示す。2区は人口密度が大きく異なることがわかる。さらに、江東区は豊島区の約10倍以上の公園面積をもつ。また、豊島区は周辺を6つの区に囲まれた内陸部に位置しているのに対して、江東区は周辺を川や海に囲まれた東京23区内の南東部に位置している。近年行われた公園整備として、豊島区では2016年から行っていた「4つの拠点公園」の整備が2020年に全て完成した。江東区では、小名木川防災公園が2020年に完成した。

(2) 豊島区における防災面での公園整備の特徴

a) 計画の改定前後での比較

表-4に計画の改定前後での比較結果を示す。カッコ内は現行計画・改訂前計画の策定年度を示す。ま

表-3 対象区の概要

	豊島区	江東区
地図		
区の面積(ha)	1,301	4,301
人口	303,866	532,984
人口密度(人/ha)	234	124
都市公園数	91	178
都市公園面積(ha)	20.866	236.411
一人当たりの都市公園面積(m ²)	0.69	4.44

表-4 豊島区の防災機能の位置づけ^{17)~22)}

防災機能	対象計画*○:方針, □:現状, △:機能					
	緑の基本計画 (2023/2016)		地域防災計画 (2020/2018)		都市計画 マスタープラン (2021/2015)	
火災の延焼防止	○△	○△	○□	○	○	○
都市水害の軽減		□	○□			
徒歩帰宅者等への支援の場			□△	△□	○	
避難場所	△	○△	○△	○△	△	○
避難路						
物資輸送			△	△		
救援活動の場	△	○△	○□△	○□	△	○
防災に関する知識を学ぶ場						
避難生活の場						
復旧・復興						
防災設備		□	□		○	○

表-5 江東区の防災機能の位置づけ^{23)~28)}

防災機能	対象とする計画*○:方針, □:現状, △:機能					
	緑の基本計画 (2020/2007)		地域防災計画 (2021/2015)		都市計画 マスタープラン (2022/2011)	
火災の延焼防止	○	○		□		○
都市水害の軽減		○			○	
徒歩帰宅者等への支援の場					□	
避難場所	○	○□	○	□△		○
避難路						
物資輸送						
救援活動の場	○	○□	□	□	△	○
防災に関する知識を学ぶ場	○					
避難生活の場			□			
復旧・復興				□		
防災設備	○		□	□	○	

た、記載内容を大きく3つに分類し、○□△の記号で示す。○は整備実行のための方針を指し、以下「方針」とする。□は公園が避難場所に指定されているなどの現状を指し、以下「現状」とする。△は基本的な区の認識として公園の機能や役割について述べたものを指し、以下「機能」とする。

表-4からは、対象計画全てで、改訂前から継続して記載があった項目として、「火災の延焼防止」「避難場所」「救援活動の場」が挙げられ、これらの項目は以前から重視されている項目だと考えられる。一方で、改定後に新たに加わった項目として、「都市水害の軽減」・「徒歩帰宅者等への支援の場」・「防災設備」が挙げられる。これらは、現在重視されるようになった項目だと考えられる。特に、「4つの拠点公園」が域防災計画上で「徒歩帰宅者等への支援の場」として位置づけられており、この項目が重視されていることがわかる。

b) 公園整備担当者へのヒアリング

豊島区公園緑地課のヒアリングの結果、豊島区では帰宅困難者対策が重視されることがわかった。公園を含め大規模な空地が少ない豊島区では、東日本大震災以降、大学とも防災協定を結び、一時的に帰宅困難者が滞在できる空間の確保を行っている。としまどりの防災公園は、密集地域である東池袋4・5丁目に公園を誘致するという昭和時代からの長期の計画のもと、令和2年に開園が実現した。災害発生時には、一時避難場所として、災害発生後には支援物資の集配所としての利用ができる。平常時にはカフェの設置等による賑わいづくりの場となるなど、フェーズ・フリーの考えで公園整備が行われている。

(3) 江東区における防災面での公園整備の特徴

a) 計画の改定前後での比較

表-5に計画の改定前後での比較結果を示す。表-5からは3計画全てで改訂前から継続している項目はないものの、「避難場所」と「救援活動の場」が緑の基本計画と地域防災計画の2計画で継続して記載があった。江東区は、豊島区と比較して改定前後での変更項目が多く、5項目が改訂後に新たに追加された。そのうち、「都市水害の軽減」・「徒歩帰宅者等への支援の場」・「防災設備」の3項目は豊島区と共通した項目である。一方、「防災に関する知識を学ぶ場」・「避難生活の場」の2項目は江東区のみで新たに追加されていた。

b) 公園整備担当者へのヒアリング

江東区河川公園課のヒアリングの結果、江東区では防災機能の普及や啓発の場としての公園利用が重要となることがわかった。江東区は都立公園以外に、面積が10haを超える区立公園が2つ存在する。それらはいずれも緑道としての性質が強く、細長い形をしていることから、避難場所としての利用は難しいとされている。一方で、面積が10ha以下でもまとまった面積を有する区立公園は避難場所に指定されている。その他の区立公園は中・小規模のものが多

く、一時集合場所としての利用が期待される。小名木川防災公園はその1つであり、住民の要請により防災施設が兼ね備えられている。また、河川に囲まれた江東区では河川の氾濫等の水害が想定されるが、その際は垂直避難を推奨している。そのため、水害に関しては、公園利用は豪雨時の雨水貯留機能が想定されている。これらの公園の防災機能は、使われることにより、その機能を発揮するため、看板の設置や訓練の実施等の啓発活動が行われている。

6. 結論

対象計画内における東京23区全体の傾向として、主に公園は避難場所やかまどベンチ等の防災設備を設置する場として位置づけられていることがわかった。さらに、地震を想定した防災機能だけでなく、水害を想定した雨水貯留施設の設置場所などとしても位置づけられていることがわかった。

詳細調査においては、豊島区では「4つの拠点公園」の整備完了を受け、それらが「徒歩帰宅者等への支援の場」として位置づけられていた。ヒアリング結果からは、東日本大震災以降、帰宅困難者対策が重視されていることがわかった。

一方、江東区は、改定前後での記載項目の変化が多く、豊島区よりも多くの項目で記載が確認できた。特に、「防災に関する知識を学ぶ場」「避難生活の場」は豊島区では見られなかった項目である。「避難生活の場」は大規模公園が存在する江東区の特徴が反映されたものだと考えられる。「防災に関する知識を学ぶ場」はヒアリング結果からも、今後重要になる項目であることがわかった。

公園はその種類や規模、管理者が異なることから、災害時を含め利用形態も様々である。詳細調査を行った2区では、防災公園の設置含め、防災機能に関する明確な数値基準はなく、住民の要請などがあり実現するものである。今後の計画策定にあたっては、利用者の意見や公園実態にあわせた役割の分担と計画上の位置づけが必要になると考える。

<参考文献>

- 1) 公益財団法人都市防災美化協企画・編集：都市における防災・美化の変遷に関する調査・研究，公益財団法人都市防災美化協会，2022。
- 2) 中島直人，村山顕人，高見淳史，樋野公宏，寺田徹，廣井悠，瀬田史彦：都市計画学 変化に対応するプランニング，学芸出版社，2020。
- 3) 国土交通省都市局公園緑地・景観課：都市公園のストック向上に向けた手引き，2016。
- 4) 東京都：防災公園ハンドブック，2017。
- 5) 山本晴彦，早川誠而，鈴木義則：震災における公園緑地の延焼防止機能と樹勢回復，農業土木学会誌，65巻，9号，pp.943-948，1997。
- 6) 樋口秀，澤田雅浩，中出文平，小野木祐二：新潟県中越地震の初動期におけるライフラインの復旧と住民の避難及び公園利用に関する研究，日本都市計画学会都市計画論文集，40-3巻，pp.709-714，2005。
- 7) 塚田伸也，湯沢昭，森田哲夫，西尾敏和：前橋市の大規模公園を事例とした防災機能に関する研究，ランドスケープ研究，79巻，5号，pp.501-506，2016。
- 8) 竹内智子：総合的な空間管理計画としての緑の基本計画の可能性に関する考察，ランドスケープ研究，75巻，5号，pp.601-604，2012。
- 9) 松岡里奈：都市における緑地に関する制度・計画の変遷と東京23区の緑化政策の特徴に関する研究，早稲田大学2016年度卒業論文，2017。
- 10) 石田雅美，葉袋奈美子：災害時における公園の位置付けに関する研究-東京都特別区で計画されている具体的防災施設について-，日本都市計画学会都市計画報告集，20巻，1号，pp.133-138，2021。
- 11) 荒金恵太，西村亮彦，舟久保敏：緑の基本計画における防災機能の位置づけに関する考察，ランドスケープ研究，80巻，5号，pp.673-676，2017。
- 12) 小口健蔵：都立公園における防災公園整備プログラムと震災時利用計画の策定，ランドスケープ研究，66巻，3号，pp.208-212，2003。
- 13) 増田昇：都市防災と公園配置及び機能，ランドスケープ研究，66巻，3号，pp.180-184，2003。
- 14) 酒井翔平：「緑の基本計画」の優良事例40選について：ランドスケープ研究，77巻，2号，pp.168-170，2013。
- 15) 国土交通省国土技術政策総合研究所：防災公園の計画・設計・管理運営ガイドライン(改訂第2版)，2017。
- 16) 東京都建設局：公園調書，2023。
- 17) 豊島区：豊島区みどりの基本計画，2023。
- 18) 豊島区：豊島区みどりの基本計画，2016。
- 19) 豊島区：豊島区地域防災計画，2020。
- 20) 豊島区：豊島区地域防災計画，2018。
- 21) 豊島区：豊島区都市づくりビジョン改訂版-都市計画に関する基本的な方針-，2022。
- 22) 豊島区：豊島区都市づくりビジョン-都市計画に関する基本的な方針-，2015。
- 23) 江東区：江東区みどりの基本計画，2020。
- 24) 江東区：江東区みどりと自然の基本計画，2007。
- 25) 江東区：江東区地域防災計画，2021。
- 26) 江東区：江東区地域防災計画，2015。
- 27) 江東区：江東区都市計画マスタープラン2022，2022。
- 28) 江東区：江東区都市計画マスタープラン，2011。